

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスくれよんクラブ			
○保護者評価実施期間	2026年 1月13日 ～ 2026年 2月 6日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	2026年 1月13日 ～ 2026年 1月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの事業所内活動状況を保護者に報告・懇談し、発達・体調・成長の各状況について共通理解を得て、今後の方向性を共有できるように努めている。	・LINEを用いて、保護者と事業所双方気軽に情報共有ができる仕組みをつくっている。 ・送迎時に学校の先生に授業状況を聞き取り、保護者の方にはその日の事業所内での様子をお伝えし、ご家庭での様子も懇談し共通認識を深めるように心がけている。	子どもの課題を保護者の方と情報共有し、一つ一つ丁寧に成長を見守るように心がける。
2	医療ケアの必要な子供に対応している。	・気管切開、てんかん等の持病がある場合の対応についても家族からの聞き取り、協議を経て看護師としての知識を十分に活用して対応し、他職員への周知・対応指導を行っている。	病変緊急時における対応の定期的な周知機会を増やす。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご家族同士、きょうだい同士、地域施設等との交流の機会を設けるなどの利用者、家族に対する療育支援 こども達にとって、ものの場所などが分かりやすい環境づくり	事業所規模、利用回数、スタッフ数、障害状況等による相違がある。	障害状況が同様の利用者の今後の療育を考えるご家族様の懇話会を企画する。 今までも行っている各種イベントについてご家族、きょうだいが参加できる機会を増やす。
2	広さが十分ではないため、子ども達各自の望む目的に応じた室内の居場所の整理、事前の用意が難しい	子ども達それぞれが自分の好む場所、広さで、好きな遊び道具を持ってきて使うので乱雑になる。	子ども達の利用する遊具や図書の傾向を把握し、必要なものを揃えておく。遊具の片付け、整理整頓の大切さを教えて最後まで見守る。
3	職員の療育スキルの向上及び各種資格取得	日々の療育支援に追われ、専門性の高い支援を行えるようにするためのスキル向上の機会が限られた日時、時間にしか行えていない。	全員或いは個別で参加できる研修の機会を増やしスキルの向上を図る。 日々の活動の中で成功事例などを今まで以上に共有する。 支援プログラムとの照らし合わせを伴うケース会議の頻度を増やす。